

(参 考)

退職公務員生活状況調査

調 査 票

秘 総務省承認済 退職公務員生活状況調査調査票

A 基本的事項について

問1 性別

男	1
女	2

問2 誕生日

--

問3 現在の居住地

--

問4 退職時の所属府省等

会計検査院	1	文部科学省	2 1
内閣官房	2	文化庁	2 2
内閣法制局	3	厚生労働省	2 3
人事院	4	農林水産省	2 4
内閣府	5	林野庁	2 5
宮内庁	6	水産庁	2 6
公正取引委員会	7	経済産業省	2 7
特定個人情報保護 委員会事務局	8	資源エネルギー庁	2 8
		特許庁	2 9
警察庁	9	中小企業庁	3 0
金融庁	1 0	国土交通省	3 1
消費者庁	1 1	観光庁	3 2
復興庁	1 2	気象庁	3 3
総務省	1 3	運輸安全委員会事 務局	3 4
公害等調整委員会 事務局	1 4	海上保安庁	3 5
消防庁	1 5	環境省	3 6
法務省	1 6	原子力規制委員会	3 7
公安調査庁	1 7	原子力規制庁	
外務省	1 8		
財務省	1 9		
国税庁	2 0		

(独)国立公文書館	5 0
(独)駐留軍等労働者 労務管理機構	
(独)統計センター	
(独)造幣局	
(独)国立印刷局	
(独)国立病院機構	
(独)農林水産消費 安全技術センター	
(独)製品評価技術 基盤機構	

P.5 問6へ ←

問5 (1) 退職時の適用俸給表

行政職 (一)	1	海事職 (一)	7	医療職 (二)	13
行政職 (二)	2	海事職 (二)	8	医療職 (三)	14
専門行政職	3	教育職 (一)	9	福祉職	15
税務職	4	教育職 (二)	10	専門スタッフ職	16
公安職 (一)	5	研究職	11	指定職	17
公安職 (二)	6	医療職 (一)	12		

(2) 退職時の職務の級

⋮	級
---	---

問6 退職時までの国家公務員としての勤続年数

⋮	年	⋮	月
---	---	---	---

B 退職時の就労希望状況について

問7 退職後も働きたいと

思った	1	→ 問8 (1) へ
思わなかった	2	→ P.9 問9 へ

問8 (1) 働きたいと思った理由 (複数回答可)

年金支給開始年齢が61歳に引き上げられることに伴い、無収入となる期間が生じないようにする	1
生活費が必要	2
将来に備えて蓄える	3
自分の自由になる収入を得る	4
子供や他の家族に負担をかけない	5
仕事に生きがいを感じる	6
仕事を通じて社会に貢献したいから	7
健康に良い	8
その他 ()	9

問8 (2) 働きたいと思った勤務形態

フルタイム勤務	1
1日当たりの勤務時間を減らした短時間勤務	2
週当たりの勤務日数を減らした短時間勤務	3
勤務時間及び勤務日数を減らした短時間勤務	4
問わなかった	5

(3) 何歳くらいまで働きたいと思ったか

●	歳くらいまで
---	--------

(4) 定年退職後に、もっとも働きたいと思った就労先

国の機関（再任用職員）	1	→ 問8 (5)へ
国の機関（非常勤職員等）	2	
政府関係機関・地方公共団体等	3	→ P.9 問9へ
民間企業	4	
自営業（農業を含む。）	5	
問わなかった	6	
その他（ ）	7	

(5) 再任用職員として働きたいと思った理由（複数回答可）

在職中の知識・経験等を活用したい	1
慣れ親しんだ職場で働きたい	2
給与、勤務時間等の勤務条件が自分の希望に合っている	3
雇用情勢が厳しく、公務外への就職は難しい	4
公務外に就職するためのノウハウがなく不安	5
その他（ ）	6

(6) 再任用の希望に際し重視した事項（複数回答可）

勤務地	1
勤務官署	2
仕事内容	3
ポスト・格付け	4
給与	5
勤務形態（フルタイム又は短時間）・勤務時間	6
その他（ ）	7

問9 再任用希望調査で再任用を

希望した	1	→ 問11へ
希望したが、その後辞退した	2	→ 問10へ
希望しなかった	3	
希望できなかった (再任用希望調査がなかった)	4	→ 問11へ

問10は、問9で2「希望したが、その後辞退した」、3「希望しなかった」を選択された方のみお答えください。

問10 再任用を希望しなかった理由又は希望後に辞退した理由（複数回答可）

これ以上働くつもりがない	1
他にやりたいことがある	2
民間企業・自営業で働く	3
非特定独立行政法人等で働く	4
国の非常勤職員等として働く	5
自分自身の健康状態に不安がある	6
家族の病気など、家庭の事情を抱えている	7
再任用の勤務地や官署が、希望と合わない	8
再任用の仕事内容やポストが、希望と合わない	9
再任用の勤務形態（フルタイム又は短時間）が、希望と合わない	10
再任用の給与などの処遇が、希望と合わない	11
自分の再任用で新規採用が抑制される等、組織の迷惑になる	12
かつての部下の下では働きたくない	13
勤務先から再任用の情報提供が不十分であったなど、希望を申し出難い状況だった	14
その他（ ）	15

問11 平成25年度定年退職者（平成26年3月31日定年退職）については、公的年金の報酬比例部分の支給開始年齢の段階的引上げに伴って生じることとなる無収入期間は1年未満ですが、仮に無収入期間が1年～2年であったとした場合

フルタイム再任用を希望する	1
短時間再任用を希望する	2
再任用を希望しない	3
再任用を希望するかどうか分からない	4

C 現在の就労状況について

問12 現在、収入を伴う仕事に

就いている	1	→	問14へ
就いていない	2	→	問13へ

問13 現在、収入を伴う仕事に就いていない理由（複数回答可）

就労を希望したが適当な仕事に就けない、求職中	1	→	P. 21 問23(1)へ
仕事をするのがきつい	2		
自分自身の健康状態に不安がある	3		
家族の健康状態など家庭の事情を抱えている	4		
働かなくても生活していける	5		
他にやりたいことがある	6		
しばらく休んだ後、また考えたい	7		
その他 ()	8		

問14 現在の就労先

国の機関（再任用職員）	1	→	P. 21 問23(1)へ
国の機関（非常勤職員等）	2		
非特定独立行政法人、国立大学法人、 大学共同利用機関法人	3		
地方公共団体、地方独立行政法人	4		
特殊法人・認可法人（沖縄振興開発金融公庫等）	5		
学校、医療機関（1～5を除く。）	6		
公益法人（公益社団法人、公益財団法人）	7		
民間企業	8		
自営業（農業を含む。）	9		
その他 ()	10		

問15 (1) 勤務形態

フルタイム勤務	1	→ 問15 (4) へ
短時間勤務	2	→ 問15 (2) へ

(2) 一週間当たりの平均の勤務日数及び勤務時間 (両方記入)

週 日勤務

週 時間 分 秒

(3) 短時間勤務となった主な事情

趣味、ボランティアなど仕事以外にやりたいことがあった	1
定年退職で一区切りついたので、仕事量を減らしたいと思った	2
自分の健康状態を考慮	3
家族の健康状態など家庭の事情を考慮	4
フルタイム再任用を希望したが、提示されたフルタイム官職の勤務地やポスト等が、希望と合致しなかった	5
自分がフルタイム再任用されることで新規採用の枠が減ると、組織に迷惑がかかると思った	6
フルタイム再任用を希望したが、職員の年齢別構成の適正化を図る観点からフルタイム官職に再任用することが困難であるとされた	7
その他 ()	8

(4) 通勤時間

30分未満	1
30分以上1時間未満	2
1時間以上1時間30分未満	3
1時間30分以上2時間未満	4
2時間以上	5

(5) 仕事内容

退職時と同種	1
退職時と関連あり	2
退職時と関連はないが、在職中に経験あり	3
初めての内容	4

(6) 仕事内容・ポストは、あなたの知識、経験を

大いに活用できる	1
活用できる	2
どちらともいえない	3
あまり活用できない	4
活用できない	5

問16、問17、問18、問19は、再任用された方のみお答えください。

問16 再任用された際の任期

1年	1
6月超1年未満	2
6月	3
6月未満	4

問17 (1) 再任用後の官署

退職時と同じ官署	1
退職時の官署と同一都道府県内にある他の官署	2
退職時の官署と異なる都道府県内にある官署	3

(2) 再任用後のポスト

ラインの役職者	1
スタッフ・専門職	2
係員	3

問18 再任用についての満足度

項目	満足	ほぼ満足	どちらとも いえない	やや不満	不満
①勤務地	1	2	3	4	5
②勤務官署	1	2	3	4	5
③仕事内容	1	2	3	4	5
④ポスト・格付け	1	2	3	4	5
⑤給与	1	2	3	4	5
⑥勤務形態・勤務時間	1	2	3	4	5

問19 再任用という働き方の課題や問題点（複数回答可）

定年退職前のようにモチベーションを維持できない	1
期待されている役割があいまいで、戸惑うことがある	2
後輩や若い世代との人間関係構築が難しい	3
継続的なプロジェクトに参画できないことがある	4
軽微な業務の割り当てしかないなど、やりがいを感じられない	5
給与、福利・厚生での処遇が十分でない	6
これまでの経験や知識を十分に活かさない	7
短時間の再任用だと仕事が回らない	8
特に課題や問題点を感じていない	9
その他（ ）	10

問20は、給与法適用職員として再任用された方のみお答えください。

問20 (1) 再任用後の適用俸給表

行政職（一）	1	海事職（一）	7	医療職（二）	13
行政職（二）	2	海事職（二）	8	医療職（三）	14
専門行政職	3	教育職（一）	9	福祉職	15
税務職	4	教育職（二）	10	専門スタッフ職	16
公安職（一）	5	研究職	11	指定職	17
公安職（二）	6	医療職（一）	12		

P.21 問23(1)へ ←

問20 (2) 再任用後の職務の級

—

級 → P. 21 問23(1)へ

問21、問22は、**政府関係機関・地方公共団体等又は民間企業で就労されている方のみ**お答えください。

問21 現在の職種

役員（取締役、監査役、執行役員）、顧問、相談役等	1
事務系業務（管理職を含む。）	2
技術系業務（管理職を含む。）	3
専門職（医師、看護師、教師、司法書士、税理士等）	4
販売、外交	5
技能職（運転手、電工、ボイラー技師等）	6
労務職（管理人、守衛、警備員等）	7

問22 現在の仕事を探した方法

先輩、友人、知人の紹介	1
家族、親戚の紹介	2
ハローワーク、人材紹介所等のあっせん	3
新聞、情報誌、インターネット等の求人情報を見て応募	4
その他（ ）	5

D 家族、家計について

問23 (1) 同居の家族 (1～5は複数回答可)

配偶者	1
独身の子	2
既婚の子とその家族	3
親	4
その他	5
本人のみ	6

(2) あなたを含めた人数 人

(3) そのうち、あなたが扶養している人数 人

いない場合は「0」人と記入してください。

問24 (1) あなたの本年7月の収入

① 給与収入	1ヶ月 約	<input type="text"/>	<input type="text"/>	万円	
② 公的年金以外の年金収入	1ヶ月 約	<input type="text"/>	<input type="text"/>	万円	
合 計		約	<input type="text"/>	<input type="text"/>	万円

(2) あなたの平成26年4月～平成27年3月までの1年間の給与収入見込み額の総額及びボーナス

1年間の給与収入見込み額の総額			うち ボーナス		
約	<input type="text"/>	万円	約	<input type="text"/>	万円

(3) あなたの(1)②の公的年金以外の年金収入及び(2)の給与収入以外の家族の1年間(平成26年4月～平成27年3月)の収入見込み額

配偶者の	③ 給与収入(含ボーナス)年間 約	<input type="text"/>	<input type="text"/>	万円
	④ 年金収入 年間 約	<input type="text"/>	<input type="text"/>	万円
他の家族からの	⑤ 収入、送金等 年間 約	<input type="text"/>	<input type="text"/>	万円
あなたと、 あなたの同居 の家族の	⑥ 事業収入 年間 約	<input type="text"/>	<input type="text"/>	万円
	⑦ その他の収入 年間 約	<input type="text"/>	<input type="text"/>	万円

問25 (1) あなたの世帯（同居の家族）の、本年7月1ヶ月間の家計支出

① 食料	約		万円
② 住居 (家賃・ローン返済額を含む)	約		万円
③ 光熱・水道	約		万円
④ 日用雑貨等	約		万円
⑤ 保健医療	約		万円
⑥ 交通・通信	約		万円
⑦ 子どもの教育	約		万円
⑧ 教養娯楽	約		万円
⑨ 税金（所得税、住民税等）	約		万円
⑩ 社会保険料	約		万円
⑪ その他	約		万円
合 計			万円

(2) あなたの住居の種類

自宅（ローン返済済み又は返済なし）	1
自宅（ローン返済中）	2
公営・公団賃貸住宅、民間借家・借間	3
公務員宿舎	4
その他	5

問26 (1) あなたの世帯の家計の状況

十分ゆとりがある	1	→ P. 25 問27へ
いづらかゆとりがある	2	
ゆとりはないが、赤字でもない	3	
毎月のやりくりで苦労しており、時々赤字が出る	4	→ P. 25 問26(2)へ
どうやりくりしても、常に赤字が出て生活が苦しい	5	

問26 (2) 赤字が出る場合の対応 (複数回答可)

退職手当の取り崩し	1
退職手当以外の預貯金等の取り崩し	2
資産の売却	3
自分自身が新たに就労する又は就労日数等を増やす	4
配偶者、同居の家族が新たに就労する又は就労日数等を増やす	5
子供等から新たに仕送りを受ける又は仕送りを増やしてもらう	6
節約を徹底する	7

問27は、夫婦二人世帯の方のみお答えください。

問27 退職後、夫婦二人世帯で、ゆとりある生活を送るためには、生活費は1ヶ月当たりどのくらい必要だと思うか

約 万円

問28 退職手当の使用予定は

① 住宅・土地の取得、住宅の増・改築 <small>(既に取得した住宅・土地や増・改築した住宅に対するローン返済も含む。)</small>	総額の約	<input style="width: 100px; height: 30px;" type="text"/>	%
② 車・家具等の耐久消費財の購入	総額の約	<input style="width: 100px; height: 30px;" type="text"/>	%
③ 子供の教育・結婚等費用	総額の約	<input style="width: 100px; height: 30px;" type="text"/>	%
④ 海外旅行・国内旅行費用	総額の約	<input style="width: 100px; height: 30px;" type="text"/>	%
⑤ 日常生活費への充当	総額の約	<input style="width: 100px; height: 30px;" type="text"/>	%
⑥ 老後やいざという時の備え	総額の約	<input style="width: 100px; height: 30px;" type="text"/>	%
⑦ その他・未定	総額の約	<input style="width: 100px; height: 30px;" type="text"/>	%
合 計		1	0 0 %

E その他

問29(1) 退職後の生活や生涯設計について考えるようになった時期

<div style="border: 1px solid black; width: 40px; height: 30px; margin: 0 auto; position: relative;"> - </div>	歳くらい
---	------

(2) 退職後の生活や生涯設計について考えるようになったきっかけ（複数回答可）

生涯設計セミナーや退職準備プログラムなどのセミナーに出席して	1
人事担当者から人事に関する意向調査(再任用希望調査を含む。)を受けて	2
定年退職予定通知を受けて	3
再任用制度などに関するパンフレットや冊子を読んで	4
実際に勤務している再任用職員など先輩職員から話を聞いて	5
自分の年金支給開始年齢を知って	6
特にきっかけはない	7
その他 ()	8

(3) ご自身の退職共済年金（報酬比例部分）の支給開始年齢をいつ知ったか

50歳より前	1
50歳台前半	2
50歳台後半	3
60歳（定年退職となる年度）	4

問30 今後の生活で気にかかることや、不安に思うこと（複数回答可）

日常の生活費などの家計	1
住宅の取得、ローンなどの返済	2
住宅の修繕・補修	3
自分の再就職	4
自分の健康	5
家族の健康や介護	6
家族や地域の人との人間関係	7
子供の就職・結婚など	8
その他 ()	9
特にない	10

問31 退職前にもっと知っておけば良かったと思うこと（複数回答可）

年金、保険などの知識	1
退職金などの資産運用の知識	2
税金、相続などの法律知識	3
再任用制度についての知識	4
民間企業への再就職の情報	5
余暇活用についての知識	6
ボランティアなどの社会参加の方法	7
健康管理、体力維持などの知識	8
人生観、退職後の生活の心構え	9
その他（ ）	10
特にない	11

問32 (1) 公務に適切と考える今後の高齢期雇用制度

現行の再任用制度で希望者全員を雇用	1	→ 問32 (2)へ
定年年齢の引上げ	2	→ P.31 問32 (3)へ
定年制の廃止	3	→ P.31 問32 (4)へ
その他（ ）	4	→ P.32へ

(2) 現行の再任用制度で希望者全員を雇用が適切と考える理由（複数回答可）

大抵は60歳定年を前提にライフプランを立てており、定年後にやりたいと思っていたこともやりつつ、仕事もして、充実した定年後の生活を送りたいから	1
60歳以降は個々人の能力・体力・家庭状況等に応じて柔軟な働き方ができる方が良いから	2
60歳以降は軽い職責の仕事になる方が良いと考えるから	3
60歳以降は収入面で定年前ほどの処遇でなくても良いと思うから	4
60歳で退職手当が受給できるから	5
希望すれば、満額年金支給開始年齢（65歳）までの雇用が保障されるはずだから	6
再雇用が主流である民間企業の状況等を踏まえるべきだから	7
その他（ ）	8

(3) 「定年年齢の引上げ」が適切と考える理由（複数回答可）

満額年金支給開始年齢（65歳）までの雇用が保障されるから	1
職員の意欲と能力に応じた任用や処遇が確保できると考えるから	2
人事管理の一体性・連続性が確保され組織運営の維持・管理に資すると考えるから	3
今後の再任用者数の増加を考えると現行の再任用の制度では希望者全員を65歳まで雇用する仕組みとして不十分と考えるから	4
基本的に定年前と同様の仕事が続けられるので、モチベーションが維持できるから	5
基本的に定年前と同様の仕事が続けられるので、人間関係などに気を遣うことなく仕事に集中できるから	6
基本的に定年前と同様の仕事が続けられるので、これまでの経験や知識を十分活用できるから	7
自分を含め周りをみても、いまの60歳代はまだ働けると思うから	8
少子高齢社会において高齢労働力は日本経済の維持・発展に不可欠であり、本格的に活用すべきと考えるから	9
その他（ ）	10

(4) 「定年制の廃止」が適切と考える理由（複数回答可）

年齢にかかわらず、能力・実績主義を徹底し、公務の能率向上を図ることができるから	1
個々人の能力・体力・生活設計等の状況に応じて、退職の時期を自由に選択できるから	2
高齢化が進展する中で、年齢にかかわらず何歳までも働き続けられるようにすべきと考えるから	3
その他（ ）	4

意見・要望

再任用制度、定年制度等について自由にご記入ください。

[]

ご回答ありがとうございました。